

編集後記

二〇〇七年の早稲田大学創立一二五年記念の催しとして、図書館では、知られざる文学者「角田柳作」(つのだりゅうさく、1878～1964)の驚嘆すべき生涯と業績にスポットをあて、展覧会とシンポジウムを開催する計画である。角田といえは明治二九年東京専門学校文学科を出た後アメリカに渡り、コロンビア大学に日本文化研究所を設立して、ジョージ・サンソム、ハーバート・ノーマン、ドナルド・キーンらの知日派学者を育てた偉い先生であるわけだが、それゆえこの催しは早稲田とコロンビア大学との共催となり、双方から人を出して準備委員会を立ち上げることになった。

コロンビア大学はニューヨークにある、いわゆる《アイビー・リーグ》に属する名門大学であるが、定年を迎える「団塊の世代」にとつては、有名な『いちご白書』に描かれる学園紛争の舞台となった大学として大変なつかしい名前だ。

「いちご白書」をもう一度「などという歌もあるが、そもそもなぜ『いちご白書』(The Strawberry Statement)なのだろう。むかし読んだがもうろおぼえなので正確ではないかもしれないが、『紛争』のさなか、大学当局が、「ストライキをしている学生たちの

政治的な見解なんぞ、イチゴが好きか嫌いかという程度のものでしかない」というような、きわめて正直な、しかしそれゆえに学生たちにとつては挑発的な発言をしたという事実にもとづいていたのではなかったか。

二〇〇六年の五月、その打ち合わせのため訪れたコロンビア大学は卒業式を終えたばかりで、緑濃いキャンパスは静かな雰囲気だった。われわれはそこで甲斐美和さんという高齢の司書の方とお会いすることができた。実は甲斐さんこそ、生前の角田柳作とともにコロンビア大学日本研究所で働き、教育者としての角田、日米交流のかけはしとしての役をした角田を間近で見てきた人なのである。甲斐さんのご尽力で、早稲田大学図書館には近々、角田柳作の蔵書を中心とする文庫もできる。

コロンビア大学のスター東アジア図書館にお訪ねした際、甲斐さんは古いファイルのコピーをわれわれに示して、およそ五〇年前のコロンビア大学二〇〇周年のとき、すでに早稲田と交流があったというわれわれの知らなかった事実を教えてください。当時のカーク学長と早稲田の大浜総長の名で交流協定に調印したりもしたはずだという。甲斐さんが見せてくれた古ぼけた写真のコピーには、旧図書館(二号館)の大閲覧室とおぼしきところでコロンビア大学に関する展覧会が行われていた様子がつづっていた。

その交流は、学園紛争のため一時まったく途絶えたという。まさしく『いちご白書』の時代だ。

甲斐さんは、やってくる日本の留学生や研修生たちの思い出を僕らに語った。彼らはおしなべて真面目な勉強家であったが、いかにせん英語の会話力に欠けていた。そこで甲斐さんは、「甲斐ルール」というべきものをつくり、部屋に入ったら一切日本語禁止にして彼らをきたえたという。

角田柳作の生涯をたどり、顕彰する企画が、真の国際交流、学術交流とはなにかという問題を考えるきっかけになればよいと思う。

(松下記)

早稲田大学図書館紀要 第54号

二〇〇七年三月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要

編集委員会

発行人 守 田 芳 秋

印刷所 三美印刷株式会社

発行所 早稲田大学図書館

東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一

〇三(三三〇三)四一四一